

功勞調書

(職名) 三重県教育委員会委員 (氏名) 森脇 健夫

一、略歴

平成二十五年十二月二十四日 三重県教育委員会委員に就任(平成二十九年十二月二十三日退任)
平成二十八年十月二十六日 三重県教育委員会委員長に就任(平成二十九年三月三十一日退任)
平成二十九年四月一日 三重県教育委員会教育長職務代理者に就任
平成二十九年十二月二十四日 三重県教育委員会委員に就任

二、功勞の内容

- (一) 豊かな知識と経験且つ、崇高な人格をもって、三重県教育委員会委員長及び三重県教育委員会委員として、七年の永きにわたり教育行政に携わり、学校教育の充実、社会教育の推進等、三重県の教育水準の向上とスポーツ及び文化の振興に多大な貢献をされた。
- (二) 学校教育の分野においては、いじめや暴力、不登校、教育格差と貧困の連鎖、少子化が進む中での学校教育のあり方など、複雑に絡み合う教育課題に対応するための指針である、平成二十八年度から平成三十一年度までの具体的な教育施策や数値目標を定めた「三重県教育ビジョン」の策定に尽力された。
また、社会情勢が少子・高齢化、経済や社会のグローバル化、超スマート社会等の進展により大きく変化し、子どもを取り巻く課題がますます複雑化・多様化する中、こうした社会の変化や課題に的確に対応していくため、令和二年度から令和五年度を計画期間とした新しい「三重県教育ビジョン」の策定にも寄与された。
- (三) 子どもたちの学力低下が課題となる中、学習意欲の向上と学習習慣の確立を図り、主体的に社会の形成に参画する力を身に付けるため、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの希望と未来を支える学力を育んでいく取組として、平成二十四年度から実施している「みえの学力向上県民運動」の推進に貢献している。また、社会総がかりで学校内外のいじめの問題に取り組み、いじめから子どもを守るため、「三重県いじめ防止条例」(平成三十年)の制定に尽力された。
- (四) スポーツ振興の分野においては、三重県を中心とした東海ブロックで開催された「平成三十年度全国高等学校総合体育大会」の開催準備・運営に三重県の子どもたちが主体的に関わるよう、関係機関、学校体育団体、競技団体等との連携・協働に尽力された。
- (五) 文化財保護の分野においては、三重県桑名市で執り行われる「桑名石取祭の祭車行事」等三件が、全国三十三件の行事の一部

として、平成二十八年十二月にユネスコ無形文化遺産に登録されるまで、関係市との協働のもと、その実現に尽力された。

(六) 学校訪問や教育関係行事などに積極的に参加され、学校・家庭・地域が連携した取組の推進、大学教授の立場からキャリア教育の充実にも尽力されている。

功労調書

(職名) 元 桑名市教育委員会教育長 (氏名) 近藤 久郎

一、略歴

平成二十七年四月一日 桑名市教育委員会教育長に就任 (平成三十年三月三十一日退任)

平成三十年四月一日 桑名市教育委員会教育長に就任 (令和三年三月三十一日退任)

二、功労の内容

(一) 桑名市教育大綱・くわなつ子教育ビジョンの策定

平成二十八年に桑名市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「桑名市教育大綱」の策定に尽力した。

また、「桑名市教育大綱」をもとに、桑名市教育振興基本計画にあたる「くわなつ子教育ビジョン」を策定した。すべての子どもたちが、これからの時代を生き抜いていくための力を身に付け、生涯にわたり安心して主体的に学び続けられるよう教育環境を整え、桑名の教育の充実に多大な貢献を果たした。

(二) 小中一貫教育の推進

平成三十年度、桑名市全ての市立中学校区における小中一貫教育の導入をめざし、その実施方針を示す「桑名市小中一貫教育基本方針」の策定に尽力した。

また、令和二年度の導入後は、確かな学力の定着と向上の実現に向けて、市立小・中学校における授業改善を推進するとともに、全国に先駆けて小学校高学年における一部教科担任制の導入に取り組んだ。

(三) 市立小中学校ICT環境総合整備業務の推進

新たな社会の変化に対応できる児童・生徒の能力育成に向け、平成三十年よりICT活用パイロット校を指定し、その取り組みを基にタブレット端末の活用をはじめとする、市内ICT教育の礎を築いた。

また、令和元年の校内ネットワーク整備をはじめ、令和二年の児童生徒一人一台端末の導入に尽力し多大な貢献を果たした。

(四) 市立小学校普通教室及び市立幼稚園保育室への空調設備の整備

平成三十年度から令和元年度にかけ、子どもたちの安全な教育環境を充実させるため、市立小学校二十七校の普通教室及び市立幼稚園九園の保育室にエアコンを設置し、学習・保育などに集中して取り組むことができるよう教育環境の向上

(五) 市立幼稚園の再編に尽力した。

平成二十五年策定の「桑名市就学前施設再編実施計画」に基づき、平成二十七年度から平成三十年度にかけて市立幼稚園を二十四園から十一園に再編した。これにより、未就学児にとって社会性を育むための望ましい集団規模の確保や、平日の預かり保育の実施による子育て支援の充実等、大きな成果をあげた。

功労調書

(職名) 元 四日市市教育委員会委員 (氏名) 渡邊 悌爾

一、略歴

平成二十年十二月二十五日 四日市市教育委員会教育委員に就任 (平成二十四年十二月二十四日退任)
平成二十四年十二月二十五日 四日市市教育委員会教育委員に就任 (平成二十八年十二月二十四日退任)
平成二十八年十二月二十五日 四日市市教育委員会教育委員に就任 (令和二年十二月二十四日退任)
平成二十五年十月九日 四日市市教育委員会教育委員長に就任 (平成二十七年七月三十一日退任)

二、功労の内容

- (一) 平成二十年十二月に教育委員会委員に就任してから永きにわたり、教育に関する豊富な経験と、卓越した識見、三重県や本市など地域との関わりの中で培った経験を基に、四日市市教育委員会に多大な貢献をしてきた。
- (二) 平成二十五年十月からは、教育委員長として卓越したリーダーシップを発揮し、教育委員会会議等での議論の充実や、円滑な運営に貢献した。
- (三) 平成二十七年には、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行され、教育現場が大きく変わる中で、学校教育の根本的な方針を示す四日市市「教育大綱」の策定に関し、学識者としての知識や永きにわたる教育委員としての経験を活かし、多大な貢献をした。また、「教育大綱」の理念を実現するための具体的な施策として同年、「第3次四日市市学校教育ビジョン」の策定に尽力した。
- (四) 平成二十九年からは、中学校給食の導入に向けて、他市への視察や、会議における経済の専門家の見地からの意見を通して、給食センターの建設に向けた取組に貢献した。
- (五) 平成三十一年からは、学校教育活動のこれまでの取組をさらに推進するとともに、新しい社会の到来に対応するために必要な資質・能力を身につけることを目指す本市独自の新しい教育施策である「四日市市新教育プログラム」の策定に尽力した。